

「沖縄フィールド調査およびニホンザル検疫業務」

京大霊長研人類進化モデル研究センター D1 鈴木紗織

【参加者】岡本宗裕（教授）、江島俊（M2）、兼子明久（技術職員）、石上暁代（技術職員）、夏目尊好（技術職員）、鈴木紗織（D1）

【日程】

- 2013.12.11 那覇空港着
- 2013.12.12 こどもの国の動物園にてニホンザルの検疫
琉球大学にて西田睦副学長訪問、学内見学
- 2013.12.13 こどもの国の動物園にてニホンザルの採便
瀬底研究施設 琉球大学熱帯生物圏研究センターにて酒井教授訪問、サンゴ
見学
美ら海水族館にて柳沢獣医師によるバックヤード見学
- 2013.12.14 こどもの国の動物園にてニホンザルの採便、ツベルクリン反応の経過観察、
アメーバ検査および園内見学
比地大滝トレッキング
やんばる野生動物保護センター ウフギー自然館見学
- 2013.12.15 こどもの国の動物園にてニホンザルの採便、ツベルクリン反応の経過観察お
よびアメーバ検査
那覇空港発

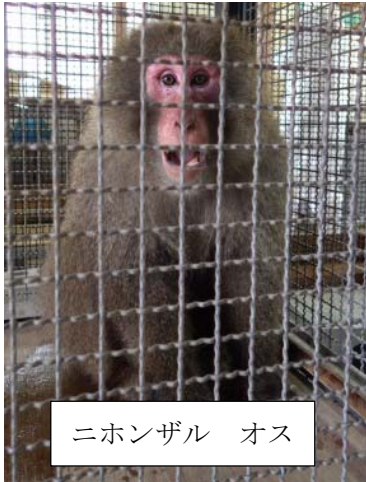
こどもの国の動物園では成獣幼獣合わせたニホンザルの検疫を行った。初日に採血、採便、ツベルクリン検査、胸腹部レントゲン、駆虫薬投与、歯科検診などを行った。糞便検査では駆虫薬投与後 1 日目から腸結節虫と思われる寄生虫が観察でき、少なくとも 4 個体以上から寄生虫が観察できたことから、この個体群には高率に寄生虫がいることが推測できた。

熱帯生物研究センターの酒井先生のお話ではサンゴに関する研究を聞くことができ、雌雄同体および異体が存在すること、また成長に伴い性別がオスからメスへ変化するものもいることを知った。また、サンゴは低栄養の海に適しているため、温暖化や海水の富栄養化、酸性化などがサンゴの繁殖に影響を与え、さらに温暖化によるバクテリアの増殖に伴いサンゴの病気が増えていることを学んだ。サンゴには褐虫藻と呼ばれる藻類と共生しており、光合成で得た栄養を得ていることも興味深かった。

美ら海水族館のバックヤードでは、日ごろの診療業務に加えて標本骨格の作製なども行われていた。また深海魚のための水圧調整や減圧方法に関しては非常に興味深かった。また単なる海洋生物の展示だけでなく、海の生態系や解剖学を学ぶコーナーも多く存在し、教育的施設であると実感した。

比地大滝ではシリケンイモリ、ヤンバルヤマナメクジ、オキナワオオサワガニなどが観察できた。また、ヤンバルクイナやケナガネズミは観察できなかったが、保護センターにてロードキルやマングース問題の現状を勉強できた。

沖縄には独自の生物も多く、ここでしか学びえないこと体験できないことがあり非常に貴重な経験となった。



ニホンザル オス



検疫・レントゲン準備



シリケンイモリ

「ストップ! ロードキル」運動実施中

今年の交通事故件数

ヤンバルクイナ	35件
ケナガネズミ	15件

●こんなところに注意して! ●

- 雨の日は側溝や路肩にたまった落ち葉からミミズなどエサとなる小動物がはい出てきます。
- この時期は子育て中で、よりたくさんのエサをとるため道路付近で活動しています。
- 朝はヤンバルクイナの活動が最も活発になる時間帯です。道路でもよく見かけます。
- 夜、ケナガネズミの事故が急増しています。夜間の運転にも十分注意して下さい。
- ペットを捨てない下さい。野生化したイヌやネコは在来生物にとって大きな脅威となります。

ロードキルとは野生動物が交通事故などにより道路で死んでしまうことです。



ヤンバルヤマナメクジ